

てしまいます。これはボランティアだけでなく全国から支援で出かける行政職員も同じ状況なので、それだけ支援活動が進まず復興が遅れるという事態が生じています。

みなさんもお気づきと思いますが、日本の本州を180度回転させると、ほぼ静岡県と石川県、伊豆半島と能登半島は、相似形のようになっています。今能登で起こっていることは、他人事ではありません。状況により静岡のほうがよりひどくなります。



能登と伊豆

## 公費解体・民家の継承について

今、能登半島地震の被災地では、被災建物の解体がまさに音をたてて進んでいます。本年3月末で約57%の進捗率です。予定では5月末で70%となっています。ちょっと長くて恐縮ですが、現場からの指摘を引用させていただきます。

### ・水野雅男先生※のFB投稿より引用（20250528）

※ 法政大学教授、ボランティアキャンプすず運営協議会代表

#### 「公費解体制度の欠点」

「世界農業遺産に認定された能登の里山里海は古民家も含まれる。地震で被災した建物の罹災判定が「半壊」以上だと公費解体の対象となり、その申請をすると「無償」で更地にしてもらえる。1階が潰れてしまったり、大きく傾いてしまったりしていれば、解体すべきだと思うが、大きな損傷がなく十分に改修できる建物も、挙って解体申請に走っている。

高齢者しか住んでおらず、子息は遠く離れた所に家を構えていて故郷に戻るあてがない場合、10年先あるいは20年先を見越して、今ならタダで壊してもらえ、ありがたい話だと解体申請に向かう気持ちはわかる。しかし、あまりにももったいない。

左の2軒は、地域のために使わせていただくことをしっかりと伝えて解体申請を留保してもらった。……解体に国費を使うくらいなら、修復に回すべきだ。修復技術の伝承にもなる。……”

### ・伊藤 光造（上記に対する伊藤のコメント）

私も全く同感です。……今起きている事態には、忸怩たるものを感じます。珠洲市の鉢ヶ崎、瓦礫置き

場の巨大な廃材の山を見て愕然としています。あの立派な民家がみんなこんなゴミになってしまっている。これでいいのだろうか？



解体された建物の瓦（20241221、珠洲市鉢ヶ崎）

水野先生が2軒残されたのは素晴らしいですね。静岡から出かけている私たちは、住宅相談と構造補強のお手伝いしかできてませんが、……お役に立ちたいと思ってます。住宅・住生活は、地域の基本だし史産ですよ。災害を乗り越えてこそ、伝統や地域文化、歴史が培われると思うのです。私は静岡ですが、静岡も南海地震がやってきます。災害を乗り越え民家を継承する仕組みを整えることが急務ですね。（以上）

## 思い出したこと

そういえば、私が静岡県建築審査会の会長をさせて頂いていた時に、東日本大震災が起こりました。その際にも支援活動に出かけたのですが、その時、現地での混乱状況を見て、2013年、県下市町の建築審査会と連携し、静岡県建築審査会から県に対し“建議”（建築基準法第78条2項）をしました。テーマは「大震災の災害復旧・復興に係る建築基準法の適切な運用について」です。

あと2017年には、建築審査会から、建築士の皆さんはよく御承知のことと思いますが、Zs（静岡県地震地域係数）を1.2にする答申を行いました。

能登に比べ建物の耐震性や、地域防災の体制はより整っていると思いますが、想定される地震規模が大きく、地域条件はより厳しい状況が静岡です。憂いを無くするための備えが不可欠だと思います。

伊藤光造

SAVE IWATE しずおか代表

NPO法人くらしまち継承機構理事長

（一社）しずおか民家活用推進協会 理事長

前静岡県建築審査会会長